

事例9 問題解決的な学習において、ICT端末を活用して対話を深める事例

○学年 第1学年

○主な領域 A 自主、自律、自由と責任

○事例のポイント

- ① ICTを活用して板書を工夫し、時間効率を高めて話合いの時間を確保する。
- ② 人間理解を促す問い返しを行い、価値実現の難しさや人間としての弱さに着目させる。
- ③ ICTを活用して話合い活動を工夫し、多面的・多角的な思考を促す。

ICTを活用した主な学習場面

展開（話合い）

ICT活用の利点

- ① 板書にかかる時間を短縮できることで、話合い活動により多くの時間を使える。
- ② 他者の考え方が視覚的に捉えやすくなることで、多面的・多角的な思考が促されやすい。

1 **主題名** 自律的な判断と自分の行動への責任 **内容項目** C 自主、自律、自由と責任

2 **ねらい** 教材中の道徳的問題や価値実現の難しさについて話し合う活動を通して、自律的に判断して責任ある行動がとれることのよさや清々しさを理解し、自分で考えて誠実に生きようとする態度を養う。

教材名 裏庭での出来事（出典：「新しい道徳1」東京書籍）

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

本時は、内容項目「自律の精神を重んじ、自主的に考え、判断し、誠実に実行してその結果に責任をもつこと。」に関するものである。

「自律」とは自らの内に規律を立ててそれに従うこと、「自主」とは外部に依存せず自ら考えて判断することであり、両者は一体的に捉えられる。また、「責任」とは自らの意志に基づく行為の結果に伴う義務を果たすことであり、「自らに由る」ことを語源とされている。こうして自主、自律、自由と責任は相互に結びつき、人格形成の核心をなすものである。

指導に当たっては、何が正しく何が誤りであるかを自ら判断することについて考えさせることが重要なのは言うまでもない。しかし、向き合った悪を毅然と退けて善を行おうとすることには難しさもある。このような価値実現の難しさに対する人間理解を基に、失敗も含めて自己の責任において結果を受け止められるような態度を養いたい。

(2) これまでの学習状況及び生徒の実態について

生徒は、小学校の段階で、自由と自分勝手の違いや、自主的な行動の意義を理解し、自分だけでなく他者や社会に対しても誠実さを発揮できるようにすることの大切さを学んできた。しかし、実態として、入学して間もない時期には、周囲を気にして他人の言動に左右されてし

もうことも少なくない。また、特に周囲の目が届かない場面においては、自らの行動が生み出した結果について責任を放棄し、見て見ぬふりをしてしまうような状況も起こりうる。例えば、トイレの利用において床にペーパーが散乱したり流しが水浸しになっていたりしたことがあったが、最後まで該当者は名乗り出なかった。皮肉なことに、自らの責任だけはきれいに水に流してしまったようだ。このような実態も踏まえ、自分を律する力や人としての誇りを持ち、責任ある行動がとれるように育てたい。

(3) 教材の特質や活用方法について

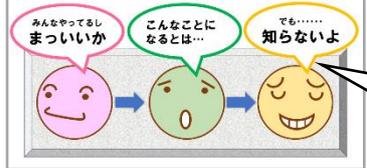
本教材は、健二とその友人である雄一と大輔を取り巻く物語である。健二は、雄一と大輔から裏庭でボールを蹴ることを誘われる。まずいとわかっていながらも呼びかけに応じる健二。三人でしばらく蹴っていると、猫に狙われたヒナを見つける。雄一はすかさず猫に向かってボールを投げるが、勢い余って物置の窓ガラスを割ってしまう。雄一はすぐに先生のもとへ報告に行くが、残された大輔と健二は再びボールを蹴り、今度は健二が誤って2枚目のガラスを割ってしまう。状況の確認に訪れた先生に対し、大輔は雄一をかばう発言こそすれど、健二の割ったガラスについては何も説明しなかった。健二も黙っていることしかできなかった。その後、健二は真実を報告しようとするも大輔に抜け駆けをけん制され、どうしたらよいのかわからず気が重くなってしまふ。翌日、健二は先生に報告することを決意し、職員室に向かった。

この教材では、主に以下の二つの道徳的問題を内包している。

- ① 「他の人もやっているから」と自らの判断で物事を考えず、流されてしまっている点。
- ② 自らの行為が生み出した結果を受け止めずに、責任をもてていない点。

上記のような非自立的で無責任な言動には非があるということを、生徒はたやすく理解できる発達段階にある。しかし、実際にそのような場面に遭遇した際に誠実な行動がとれるかどうかは別である。価値実現の難しさを話合いのきっかけにし、問題解決的に学習させたい。

4 学習指導過程

| 段階 | 学習活動と主な発問 | 予想される生徒の反応 | ・指導上の留意点 ☆評価の視点 |
|----|--|--|---|
| 導入 | <p>1 『私たちの道徳』 (文部科学省) P23 を読む。</p> <p>・こんな自分がいませんか。</p> <div data-bbox="223 1747 590 1960" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>こんな自分がいないだろうか？</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; width: 30%;">みんなやってるしまついいか</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; width: 30%;">こんなことになるとは…</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; width: 30%;">でも……知らないよ</div> </div>  </div> | <ul style="list-style-type: none"> ・どんな状況だろう？ ・よくある。 ・あるかも。 ・ない。 | <ul style="list-style-type: none"> ・「他人に流されて行動する」(非自律) → 「望ましくない結果を招く」 → 「知らぬふりをする」(無責任) ・授業開始時の自己を見つめさせつつ、「自律」「責任」といった価値への導入を図る。 |

電子黒板やプロジェクタを使用し、教材画像を拡大表示して提示することで、視覚的に捉えやすくなる。

| | | |
|----|--|---|
| 展開 | <p>2 教材「裏庭での出来事」の読み聞かせを聞き、話し合う。</p> <p>(1) 誰のどのようなところが問題ですか。</p> | <p>〈登場人物〉 健二、雄一、大輔</p> <p>〈条件・状況〉 ・誘いにのって、裏庭で遊びガラスを割った。 ・ガラスを割ったことを先生に報告できずにいた。</p> |
| | | <p>健二</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誘いに乗ってしまうところ。 ・2枚目のガラスを割ってしまったところ。 ・すぐに本当のことを報告できなかったところ。 <p>雄一</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健二を裏庭に誘ったところ。 ・おかしいと思いつつも友達をかばっているところ。 <p>大輔</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1枚目のガラスが割れた後にもボールを蹴ろうと誘ったところ。 ・本当のことを言いに行こうとした健二に圧をかけたところ。 |

ICT活用の利点①

ICTを活用した板書の工夫

| 誰のどのようなところが問題？ | |
|----------------|--|
| 誰 | 問題点 (○○したこと、○○なところ) |
| 健二 | <ul style="list-style-type: none"> ・誘いに乗ってしまった。 ・2枚目のガラスを割ってしまった。 ・本当のことをすぐに言えなかった。 |
| 雄一 | <ul style="list-style-type: none"> ・健二を裏庭に誘ってしまった。 ・おかしいと思っているのに、友達をかばおうとしている面もある。 |
| 大輔 | <ul style="list-style-type: none"> ・ガラスが割れたのに再びボールを蹴ってしまった。 ・本当のことを言おうとした健二に圧をかけた。 |

「授業支援ソフト（スクールタクト）」を用いて生徒の考えを表に入力することで、生徒は端末上でリアルタイムに情報を見ることができる。黒板での板書に比べて時間効率を高められるので、この後の展開で話し合いにかける時間を増やすことができる。

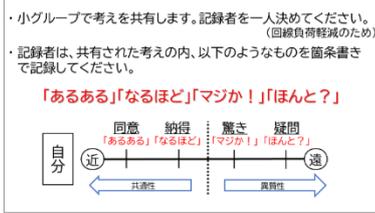
事例のポイント①

| | | |
|---|---|---|
| <p>(補助発問)</p> <p>共通しているのはどのような点ですか。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・他人に流されてしまっている点。 ・自分の行動の結果に責任をもてていない点。 | <ul style="list-style-type: none"> ・たくさん挙げられた論点の材料から、本質的な部分を精選していく。 |
| <p>(2) 健二は本来どうすればよかったのでしょうか。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・誘われても断るべきだった。 ・すぐに真実を報告するべ | <p>【考察(1)①参照】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が考えを出しにくい場合は、導入で提示した画像に立ち返らせる。 ・本来とるべきだった行動について考えさせることで、問題 |

| | | |
|--|---|--|
| <p>(補助発問) 実際にこのような行動をとろうと思おうとき、何か障壁がありませんか。</p> | <p>きだった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いわれてみれば、実際には難しいかも。 ・友達の顔が浮かんでしまう。 ・怒られたらどうしよう、となりそう。 | <p>解決的な学習を始める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・価値実現の難しさや人間としての弱さの部分に着目させる。(人間理解) ・これを乗り越えて実践していくためにはどうすればよいかという問題意識を醸成する。 |
| <p>事例のポイント②</p> | | |
| <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p style="text-align: center;">人間理解を促す問い返し</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p style="text-align: center;">理由や具体性を問い返すことで、人間理解を促す。</p> </div> <p>T : 実際、友達を目の前にして断ろうとしたり、自分の失敗を先生に報告しようとしたりすることって、<u>そんなに簡単にできますか。</u></p> <p>C1 : いや、けっこう難しいかも。</p> <p>T : <u>どうして難しいと感じるのですか。</u></p> <p>C1 : 友達の不機嫌な顔がどうしても浮かんでしまう。</p> <p>T : 友達に<u>どのように思われたら困るのですか。</u></p> <p>C1 : 恨まれたり、友達やめるって思われたりするからだと思う。</p> <p>T : なるほど。友人関係が優先されてしまうかもしれないですね。先生に報告しようとするときはどうですか？</p> <p>C2 : 怒られたら嫌だなんて思いそう。</p> <p>T : 確かに、叱られるのを避けようとしてしまうのは人間としてよくある話です。<u>では、どうすればよいのでしょうか。</u></p> | | |
| <p>3 価値実現に必要な内面的資質について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他人に流されず正しい判断をしたり、自分の行動に責任をとったりするためにはどのような考え方が必要ですか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分で判断して正しい行動がとれたときの清々しさをイメージする。 ・目の前の損得ではなく、もっと先のことまで見通して判断する。 ・正しい行動をとることで友情がより深まると考える。それができないのなら友達とは言えない。 ・責任がとれないままもやもやしている方がもっと苦しい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ねらいとする道徳的価値について、多面的・多角的に考えさせる。 ・最初は3～4人の少人数班で話し合わせ、その後、クラス全体で共有する。 ・「意思を強くもつ」や「正しいと思ったことをやる」といった短絡的な考え方に対しては、理由や具体性、妥当性等を問い返すことで、対話を深めていく。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; width: fit-content; margin: 20px auto; padding: 5px;"> <p>【考察(1)②参照】</p> </div> |

少人数班で話し合わせる前に、右のような意見を記録するように指示を出しておく。

【考察(1)①参照】



☆自律的な判断をしたり自分の行動に責任をとったりするために必要な考え方について、他者の考えを参考にしながら様々な視点で捉えようとしている。(話し合いの観察)

ICT活用の利点②

ICTを活用した話し合い活動の工夫

他人に流されず、責任を取るためにはどのような考え方が必要?

- ・自分で判断して正しい行動が取れたときの清々しさをイメージする。
- ・目の前の損得ではなく、もっと先のことまで見通して判断する。



話し合いでは「授業支援ソフト (スクールタクト)」を活用する。班内で共有された考えをホワイトボード形式で記録し、クラス全体で共有する際には一覧表示や拡大表示を用いて提示する。こうして視覚化された多様な考え方に対して問い返しを繰り返すことで、生徒の多面的・多角的な思考を促す。さらに、共有された考えは板書の右半分にはマッピング形式で図示し、思考の繋がりや広がりを見える化する。

事例のポイント③

終末

4 自己を見つめ、人間としての生き方について考える。
 ・話し合いを終えて、考えたことを書いてください。

- ・自分を強くもつためには、その場の感情だけで考えずに、その後のことまで考えて行動していきたいと思った。
- ・正しい行動がとれないと余計に嫌な気持ちになるから、自分で考えて責任をとっていききたい。

・話し合いを踏まえて、今日の授業での学びをワークシートにまとめさせる。

ICTを活用し、アンケートアプリ (Forms) 等でまとめさせてもよい。データ化されるので、道徳科の評価や学級通信等にも活用しやすくなる。

「話し合いを終えて考えたこと」には、①これまでの自分の経験にも関わりのあると思ったこと ②考えが広がったり深まったりしたこと ③もっと知りたい、考えてみたいと思ったこと ④新たに疑問に思ったこと などの観点があることを生徒に示しておくことよい。道徳科の目標に示された学習活動に照らした振り返りが行いやすくなる。

☆自律的で責任のある誠実な生き方について、話し合いで考えたことと自分の生き方とを結びつけて考えようとしている。(ワークシート/アンケートフォームの記述)

板書

裏庭での出来事

◎他人に流されず正しい判断をしたり、自分の行動に責任をとったりするためにはどのような考え方が必要ですか。

◎3人に共通する問題点は？

- ・他人に流されてしまっている
- ・責任をもつことができていない

⇒では、どうすればよかった？

- ・断るべき
- ・報告するべき

そんなに簡単？

```

graph TD
    A(自律的な判断・責任) --- B(できたときの清々しいイメージ)
    A --- C(目の前のことではなく先のことまで考えて)
    A --- D(正しい行動がとれる友人関係の方がいい)
    A --- E(責任がとれない自分である方がモヤモヤする)
            
```

問題意識をもたせる板書 ねらいとする価値を多面的・多角的に整理する板書

5 他の教育活動との関連

| | |
|-------------|---|
| 事後指導 | 帰りの会で本時の学習内容を振り返る。 |
| 国語科（光村図書出版） | ヘルマン＝ヘッセ「少年の日の思い出」 |
| 家庭・地域との連携 | 本時の学習内容や生徒の感想を学級通信で紹介し、家庭でも「自律的な判断」や「責任ある行動」について話題にしよう。 |

6 評価の視点

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- ・自律的な判断をしたり自分の行動に責任をとったりするために必要な考え方について、他者の考えを参考にしながら様々な視点で捉えようとしている。

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

- ・自律的で責任のある誠実な生き方について、話合いで考えたことと自分の生き方とを結びつけて考えようとしている。

7 考察

(1) 道徳科の目標に示された学習活動

①多面的・多角的に考える学習について

本時は、「自律的な判断をしたり自分の行動に責任をとったりするために必要な考え方」について、他者の考えを参考にしながら様々な視点から多面的・多角的に考えられるように授業を行った。

具体的には、価値実現に必要な内面的資質について話し合うための発問において、まずは3～4人の少人数で意見を共有するようにした。その際、他者の考えと出会ったときの「距離感」があることを生徒に伝えた。「同意」「納得」「驚き」「疑問」の順にだんだん自分自身の考えから遠ざかっていく。この距離感をスタートに対話を深めていくことを意識させた。

また、この発問に至るまでに、生徒に問題意識を十分にもたせることが重要であると考えた。具体的には、教材が内包する道徳的問題を材料にして、その本質的な部分を精選させた。

ここでの本質とは、「非自律的であること」と「無責任であること」である。この本質にたどり着きやすくなるように導入では『私たちの道徳』を用い、上記がシンプルに図式化された画像を示した。教材の道徳的問題の本質を解決していくためにはどのようにすればよいかと思考したくなる状態が、問題意識が高まっている状態であるといえる。

②自分との関わりで考える学習について

少人数班での意見共有の後に、クラス全体で考えを深める時間を設けた。その中では「意思を強くもつ」や「正しいと思ったことをやる」といった短絡的な考え方も挙げられた。その際、「どうして?」「たとえば?」「本当に?」など、理由や具体性、妥当性などを問い返すことで、対話を深めていった。特に、「たとえば?」と具体性を問い返すことで、自分自身の生活経験を想起させることができ、自分の生き方との関連で考えさせやすい。

| 「問い返し」の整理 | |
|-----------|--|
| 「問い返し」の分類 | 説明 |
| 根拠を問う | なぜそう思ったのか、どうしてそうなるのかを問い返す。 [例]「なんでそう思うの?」 「どうしてそうなるの?」 |
| 具体性を問う | 例えばどんな事物があるのか、結果としてどんな事象が起こりうるのかを挙げさせる。 [例]「例えば何が?」 「そうだったらどうなるの?」 |
| 関連性を問う | 他の生徒の意見との関連や、生徒から出てきていない考え方との関連を指摘する。 [例]「〇〇さんの意見に関連するところもありそうだね?」 「実際には〇〇ということも起こるみたいだけど、関係ありそう?」 |
| 妥当性を問う | 本当にそうなのか、絶対にそうなるのか、逆に考えたらどうなるのかを確認する。 [例]「最初からそうだったの?」「例外はない?」 「逆に〇〇だったらどうなの?」 |

また、終末で「話し合いを終えて考えたこと」をまとめさせる段階では、①これまでの自分の経験にも関わりがあったと思ったこと ②考えが広がったり深まったりしたこと ③もっと知りたい、考えてみたいと思ったこと ④新たに疑問に思ったこと などの観点で考えさせた。

(2) 評価の視点について

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- ・自律的な判断をしたり自分の行動に責任をとったりするために必要な考え方について、他者の考えを参考にしながら様々な視点で捉えようとしている。

少人数班での活動の様子の観察や、クラス全体で共有して深める時間での発言内容を基に評価を行った。問い返しに対して、言葉はたどたどしいながらも自分が考えている価値観を説明しようとしている生徒が多かった。

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

- ・自律的で責任のある誠実な生き方について、話し合いで考えたことと自分の生き方とを結びつけて考えようとしている。

アンケートアプリ (Forms) に入力されたデータを見取ることによって評価を行った。自分で最初に考えたことと他者の考え方を関連付け、「その場の感情だけで考えずに、その後のことまで考えて行動していきたい」「正しい行動がとれないと余計に嫌な気持ちになるから、自分で考えて責任をとりたい」など、自己の誠実な生き方を見つめようとする記述が多かった。